

第1回名張市総合計画審議会会議録（概要）

日 時：令和4年7月5日（火）15時00分～17時00分

場 所：名張市役所2階 庁議室

<出席者（五十音順）>

埼玉大学キャリアセンター長/教授	石阪 督規	以下：会長
名張市観光協会副会長	市橋 雅美	以下：委員
おじゃまる広場副代表	草部 豊美	以下：委員
公募	澤田 二郎	以下：委員
公募	大黒 史智	以下：委員
名張市教育委員会委員	辻 愛	以下：委員
一般社団法人つなぐ代表	野山 直人	以下：委員
伊賀地域防災総合事務所長	藤井 理江	以下：委員
民生委員児童委員協議会連合会会長	藤村 純子	以下：副会長
名張商工会議所青年部会長	宮本 雄基	以下：委員
名張市農業委員会会長	山崎 祥生	以下：委員

※金野 千恵子 委員（公募）は欠席。

<事務局>

名張市 統括監 中野 雅夫、総合企画政策室 室長 今村 典義、係長 西口 英司

1. 委嘱状の交付

名簿順に市長より各委員へ委嘱状交付

2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。名張市長の北川裕之でございます。先程から委員の皆様方に名張市総合計画審議会の委員の委嘱をさせていただきました。是非よろしくお願ひ申し上げたいと思います。4月25日に市長に就任させていただきました。今2か月余りとなりますけれども、まだ市長としては新米でございますので、皆さん方と一緒に悩みながら、一緒に考えて、新しい市政運営を頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

選挙の時に、いくつか公約を掲げて臨ませていただいたわけですが、まずは名張を含め全国的に人口減少、これが大きな課題でございます。このことにどう対応していくのか、そしてまた、新たに新しい時代の流れとして、デジタルやICT、こんなところが活用される時代になりました。コロナの影響もありますけど、デジタル・トランスフォーメーション（DX）といった言葉も出てきておりますし、Society 5.0であったり、或いはSDGsであったり、新しい考え方がたくさん出てきて、次の時代に備えて考えていかなければならないことが増えてまいりました。名張

市は亀井前市長のもと、福祉の理想郷ということで市の総合計画をつくっていただいて、市政運営を進めてきたわけでございますけど、今申し上げたような新しい流れの中で、もう一度、名張市のこれからの進んでいく、進めていくべき方向を皆さんと一緒に、また、市民の皆さんと一緒に作り直していかなければならない、作り直していきたい、そんな思いで委嘱をさせていただいたわけでございます。

私自身は、5期20年務められた亀井前市長がつくってこられた福祉や教育や医療、この分野は是非しっかりと守っていきたいと思ってございまして、とりわけ15の地域で地域内分権を進めてこられて、地域づくり・まちづくり、自分たちのことは自分たちで考えて、そして自分たちで政策の優先順位を決めながら、まちづくりを進めていく、これを進めてきていただきました。非常に大きな市民の財産だと思っておりまして、是非これは大事にして、更に発展をさせていただきたい、発展をさせていきたいという思いがありますし、またそうした土壌の上に、福祉の素晴らしいシステムも出来上がってきております。それは、まちの保健室であったり、名張版ネウボラという言葉に象徴されるような子育て支援の仕組みであったり、これは本当に全国的にも注目をいただいてきたものでございますから、こういうところもしっかりと維持をしながら、時代に合わせて更に充実をさせていくということも引き継いでやっていきたいという思いでおります。更に付け加えて、人口減少下で、なかなか人口減少は止められるものではないんですけれども、しかしながらやはり、特に若い世代の流失が激しいですから、それが進んでいきますと、まちの活力、元気がなくなっていく、コミュニティも維持できなくなっていく、そんな危惧をしております、何とか若い世代に、このまちに定着をいただいて、活性化を図っていききたい、こういう思いの中で、私は若い人たちにこのまちに残っていただくためには、雇用もつくっていかねばならない、そしてまた、ベッドタウンで大きくなったまちが人口減少にあうということは、そのまま税収も落ち込んでいきますので、税収の基礎もつくっていききたい、こんな思いで産業の基盤をつくっていききたい、とりわけ、いきなり新しい工場ができるわけではありませぬので、産業ができるわけではありませぬので、地域の中の資源を活用して、私は観光産業、これを中心に産業の基盤をつくっていききたいという思いで、それを公約の1丁目1番地にさせていただいております。

単に「観光業」ということではなくて、「観光産業」ということですから、市内の農業、色んな交通手段、広告代理店、印刷業など観光に絡む様々な産業を連携させながら、地域産業を連携しながら、まとめ上げながら、名張市全体で観光産業を盛り上げていきたい、資源はたくさんありますので、そういうかたちで若い人の雇用もつくりながら、そしてまた若い人たちにとってやりがいのある仕事をつくっていききたい、そんな思いでいます。

そのような意を汲んでいただきながら、なおかつ今日お集まりいただいております皆さん方、素晴らしいメンバーが揃っていただいたと感じておりまして、皆さん方の思いの中で、次の新しい名張、こんなまちをつくっていききたい、こんなまちにしていきたい、こんな思いを出していただきながら、名張市の新しい総合計画、つくりあげていきたいと思っておりますので、お忙しい方も多いと思えますけれども、是非時間とお力を頂戴して、素晴らしい、市民にとって、これなら一緒に頑張れるな、是非こんなまちをつくりたいな、そういう風に思っただけの計画を是非皆さんの手でつくりあげていただけたら、そんなことを願わせていただいて、私のからのお願いを兼ねたご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 委員紹介

名簿順に事務局よりご紹介。

4. 1回審議会

○会長及び副会長の選任

会 長：石坂 督規 委員

副会長：藤村 純子 委員

○総合計画の諮問

北川市長から石坂委員長に諮問

○会長・副会長あいさつ

(会長あいさつ)

あらためまして石坂と申します、どうぞよろしくお願ひいたします。どちらかというと進行役ということでご指名いただいたところもございますので、皆さんの意見を出していただいたものをコーディネートしていく、これを役割だと思って進めさせていただきます。本日も含め、今後よろしくお願ひいたします。

冒頭でもありましたけど、この地域、高齢化や人口減少が進んでいて、子どもさんが外に出てしまうようなことも多々あると伺っていますし、私が名張に頻繁に通っていたのが10年ぐらい前ですが、それから比べても人口流出が著しいとも伺いました。そういう中で北川市政になって、初めての総合計画ということになります。市長（トップ）が変わると計画の内容がガラッと変わるというのがほとんどの市でそうです。冒頭の市長のお話しで、亀井市政を一部継承しながら、特に医療や福祉については非常に実績があるので、それは守りながらも、やはりこれからの名張、人口が出ていってしまっ、課題も山積する中でそれをひとつひとつ拾い上げて市民の皆さんと一緒に市をつくっていきたくと非常に強い思いも先程語っていただきました。何とかそれをかたちにするというのがこの役割だと思っています。いわゆる計画の骨格にあたる場所ですから、骨組みが揺らいでしまいますと、他の計画も揺らいでしまうことがございます。皆さん様々なご意見をいただきながら、この審議会ですっきりと骨格をつくり上げていく、おそらく柱というものが後程発表があると思いますが、いくつかの柱をしっかりとしたものにしていくための審議会と理解していますので、皆さんの思いをかたちにする、そのためのサポートをさせていただく、そういうかたちで進行をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(副会長あいさつ)

皆さんとともに新しい目標に向かって案が出せるように頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○審議会の進め方について

事務局より資料「第1回総合計画審議会の進め方について」を説明。

※ディスカッションテーマ（産業、まちづくり、医療・福祉・教育、その他）に基づいて、自由な意見を付箋に記入いただき（ブルー：課題、ピンク：改善点）、記入後の付箋を模造紙に貼付し（縦軸：予算の高⇄低、横軸：緊急的⇄将来的）、委員間のディスカッションにつなげていく。

（委員）

市長は変わりましたが、検討しようとしている内容は、現在の総合計画「新・理想郷プラン」とよく似た内容のことをもう一度しようということですよ。

（会長）

総合計画自体は今度更新されます。

（委員）

更新するのですが、やる内容は基本的にあまり大きく変わってないですよ。そうすると、この5～6年間の総括と言いますか、皆さんの共通認識、現状認識として、色々やったことの成果や反省を事前にしておく必要はないのでしょうか。

（会長）

あらためて今までのを見て課題を出しましょうというよりは、今日は課題を出していただくということでもありますので、まずそれを書いていただいて、ここができていなかったとか、ここが課題だったとかをお書きいただいて、事務局に持ち帰っていただいて調べてきてもらうという作業をやりたいと思っています。

（委員）

思ってた以上に効果のあった施策があったのか、なかったのかという認識がまずないので、そのあたりのことをまず予備知識としてあればと思いました。

（会長）

現在の計画（新・理想郷プラン）がまだ終わっていないので、検証と策定のプロセスを並行してやっていくかたちになりますので、また審議会のプロセスの中で、事務局より進捗状況について説明いただく機会があるとは思いますが、今日はこのようなかたちで進めていくということでお願いいたします。

（委員）

了解しました。

(委員)

課題は書きやすいと思いますが、改善点について、諸々課題をあげたことに対する改善点が良いですか。

(会長)

それがあればその方が良いです。例えば、教育の課題を挙げて、先生が忙しくて部活の面倒が見れないという場合、改善点として地域のスポーツ団体がそこに入れるような仕組みをつくる、などそのようなイメージで結構です。ブルーの付箋だけだと課題ばかりになるので、改善点があればピンクの付箋にもお書きください。

(委員)

資料2ページにある目標設定というのは、最終的には、ブルーとピンクの付箋で出した内容から抽出するという考え方で進めていくのですか。

(会長)

終了時の目標設定ですね。おそらく最終的なかたちになると思いますので、今回は皆さんの意見出しです。ですから、これで決まるというわけではないです。

(委員)

目標設定があって、そこから枝葉として施策を決めるというやり方が基本かと思いますが、今回の場合は。

(会長)

まだそこまでできていないと思います。逆に言えば、課題の抽出という一番最初のプロセスです。まず最初に地域にどんな課題があるか。

(委員)

分かりました。

(会長)

委員の皆さんが既に活動されている内容等もピンクの付箋紙にお書きいただいて結構です。

○ディスカッション

※各委員が記入し模造紙に貼付した意見を会長が読み上げ、意見内容を委員間で共有。

【産業】

(会長)

ブルーとピンクが半々ぐらいで、産業に関しては、課題だけではなく、取組も進んでいるとい

うこととなります。観光資源が少ないとか、若者が定着できていない、産業がないが故に若者が出ていってしまってる、産業があれば稼ぐ手段があるので。景気が良くない、具体的な企業誘致の話も既にありますし、ほとんどが観光に該当する内容です。例えば、名張市内に赤目のようなスポットが少ない。よそから惹きつけるものは、名張には赤目しかないのですか。

(委員)

赤目は滝があるので。

(副会長)

美旗に古墳もあるが、なかなか行かない。

(会長)

おそらくポテンシャルはあると思うので、それがまだ観光資源として上手く活用できていないという課題ですね。観光に推すものを明確にした方が良いでしょう。例えば、伊賀であれば忍者、鈴鹿だったらサーキットと、いわゆるキラーコンテンツと呼ばれるのですが、名張といたら赤目で良いのかどうか、それでいけるかどうか、全国的なネームバリューの観点から。

(副会長)

赤目の忍者も有名です。竜口が伊賀忍者発祥の地です、百地三太夫の。伊賀は上野城があって城下町なので。

(会長)

第2、第3の方が有名になるケースはよくあります。これまでは、観光産業に上手く結びついてなかったのかもしれませんが。

(会長)

それから、伝統産業に関わる意見内容と思いますが、具体的に何かあるのですか。

(委員)

能楽。

(会長)

産業としてビジネスになっているのですか。

(委員)

なっていないです。

(委員)

能面は室町時代からのものが残っていると聞きます。

(会長)

どちらかと言うと保護すべきものであって、観光産業にまでなっていないというのですか。

(委員)

なっていないです。

(会長)

組紐がアスリートの紐として、とはどういうことですか。

(副会長)

組紐をミサンガとして。

(会長)

今あるものを別のものとして活用するということですか。組紐としてだけでは需要が限られますので、スポーツ用品としてですね。

(会長)

あとは若者の働く場所がないのですが、名張でお住いの方はどこで働いていらっしゃるのですか。大阪に行かれて夜に帰って来られるのですか。

(委員)

工場にお勤めの方は多いと思います。名張に来る方もいますが、名張から伊賀に行かれるの方が多いです。

(会長)

伊賀と名張の人口移動ですね。極端に言えば、伊賀で働いてもらって、名張に住んでもらえれば良いですね、逆だと困りますが。元々は大阪のベッドタウンだと思いますが。

(委員)

私たちより上の世代（団塊の世代）は大阪・奈良から越して来られて、次のジュニア世代（団塊ジュニア）は比較的この近辺で就職されている。世代によって働いている場所が違うと思います。

(会長)

若い人たちに定着してもらおう産業を考えないといけないですね。それから、観光地がありなが

ら集客の減少が問題とあります。観光資源が少ない。このあたり、観光地に上手く集客ができないというジレンマでしょうね。皆さんも感じてらっしゃるんでしょうね、せっかくのものがありながら、思いのほか人が来てくれないと。

(委員)

私は外部から来ている者ですが、「名張って何がある」と聞かれることが多いですが、何って言えない。青蓮寺のぶどうや名張の日本酒を使う店も大阪で多いですが、而今は名張というぐらいのレベルで、でも而今は名張で販売していないので。明確に、名張にはこれがあると、全国的に有名なものを、市としてもこれを推していこうというのが明確になってくれば、それが根付いてくるのかなと思うのですが、今のところこれというものがなく、なかなか言いにくい状況にあります。

(会長)

赤目以外にあるにはあるということですね。

(副会長)

赤目のトレッキングコースで地層的にも珍しい箇所があるが、隠れたものとなっている。

(会長)

隠れたままになっているのですね。結構多いんですよ、地元の方が知っていて。どこを掘り上げて観光化していくかというのは課題ですね。今までの課題を整理すると、名張は観光に力を入れてたんでしょけれど、思いのほかコロナもあって集客が厳しかったという問題と、観光資源として赤目があるようですが、それが他の地域と比べて全国的なものになっていないところもある。

(副会長)

過去には、滝100選にも選ばれた。電車や観光バスでの観光客も多かった。自然が好きな人だけのようになっている。

(会長)

おそらく今回の計画では、関西万博があるがその帰りに名張に寄ってもらうであったり、途中で名張を経由することも戦略の一つとして必要なもので、そことの結びつきも出てくると思われる。

(副会長)

外国人の方は増えてきている。赤目駅前のステーションにも立ち寄られる。日本人とは違う視点で、田舎や昔からのことに興味を持たれている。

(会長)

滝や忍者に関心は高いと思います。ただ、名張の場合、インフラはどうか。外国語表記やWi

ーFi環境など外国人向けのサービスが定着しているか。先進観光地は整っているが、このあたりが劣っているのは否めないと思います。インバウンド戦略を立てるのであれば、今後の計画の中にそのようなことを落とし込まないと、広がりを見せることは難しいと思います。

(委員)

外国語表示の関係はQRコードで読み取れるようになっていたと思う。伊勢に行かれる方が結構いるので、大阪から来ていただくと名張は真ん中になる。経路で降りてもらうのが良いと思う。

(委員)

名張は1時間半で、京都や名古屋に行ける。大阪や伊勢には1時間で行ける。だから良い場所と思う。

(会長)

最近で言うとバリアフリーなど、赤目滝でもある部分までは車いすで行くことができるなど。別の市内観光のルートで、できる場所があればアピールポイントになると思います。今後、多様性がひとつのポイントになると思います。観光地だからといってダメですよという排除の論理ではなくて、誰にでも来てもらって楽しめるように、そういったものをつくっていくという姿勢を今後組み込まないといけないと思います。

(委員)

市長の挨拶にもあったように、観光業というのは若い世代の流出が多いので、その定着化の中で産業として観光業にスポットを当てたいというお話があったと思います。観光云々の前に、どういったかたちで観光を産業化し、なおかつ若者の仕事をそれと結び付けてつくれるのかという視点の欠けた論議はあまり意味がないという気がしますが。

(会長)

若者の雇用だけではないですね、地域経済とか。

(委員)

優先順位や緊急性からして、そのことをもう少し論議のスポットに当てるべきではないでしょうか。

(会長)

もちろんそうです。

(委員)

観光の議論の前に、何のために観光というのを論議しようとしているのかという視点が、やや脱線してはいないのかなと思うのですが。

(会長)

これは取りまとめではなく、皆さんの意見をまずは紹介して、次回に向けて事務局にまとめてきてもらいます。そのあと皆さんから、例えば、若者の雇用と観光は結びつくなど、まずはこれを重点プログラムのひとつとして位置付けるといったかたちにまとめていきたいと思っています。今日はまず紹介ということで考えています。

(委員)

分かりました。

【まちづくり】

(会長)

まちづくりは言葉が広いので、色んなものが入ってくる可能性があります。緊急性の高いものとして、子育て世代の意見を汲み取る、まちづくりの中で雇用を確保できないか、若者のまちづくりへの参画、まちづくりに関わる人材をどうやって育成するのか。若者の流出というものに、まちづくりの中で人材を育成したり雇用したり、こういうものが緊急的なものに入ってきています。段々、将来的な方になると、住宅団地に住んでいる方々と旧町にお住いの方との間で交流がないというご意見、将来の名張の姿が見えない、ガーデンシティなばり、緑と水に囲まれた庭のようなまちを目指すべき、或いは、芸術のまちを目指してはどうか、青年会の中から役員や活動部会の部長として参加してもらい先を見据えたまちづくりに着手したと。旧町内の動線（歩行者と車）とはどういう意味ですか。

(委員)

元々小さいまちのつくりになっており、車文化ができる前の江戸時代に形成されたまちで、水路が流れ、生活のインフラとして使われていたはずのものが、暗渠として水路にフタがされ、車を通すことになったけれども、そもそも人の動線と車の動線が混在している。観光資源を削り、車社会を優先し、あえて危険なものと呼び込んでいるところを、高齢化社会によって車社会もどうなるかということも踏まえて、その動線をきちんと考えていく良い機会だと。

(会長)

観光地になると、市街地を車規制するところも結構あります、時間規制や地元の方しか入れないなど。アイデアとして、歩いて安心してまわれる市街地を目指すなら。整理するとお金はかかりますが。それから団地の空き家の増加率。これはそうなのですか。

(委員)

農村部でも旧町でも。

(委員)

住宅団地では深刻と聞いており、40～50年前に大手事業者が開発し、同世代の方が入って来られ抜けていくので、一挙に空き家が発生する。

(会長)

空き家には所有者がいるわけですね。

(委員)

相続できない人もいる。

(委員)

旧町では空き家として放置され、行政代執行で解体しているケースもある。山手の住宅団地では空き家が出ても次の買い手が見つからない。相続者が県外在住で建物を解体すると固定資産税が上がるので、そのまま放置している状態のものがある。

(委員)

整備されたインフラは今後更新となるが、空き家が増えてきた住宅団地を今後どう管理していくか、人口減少で税収も減る中、大きな問題と思う。

(会長)

全国的にも問題になっている。バブルの頃に建設されたリゾートマンションのあるまちでは、1部屋1万円で販売されているが売れない。それぐらい価値がなくなっている。名張でもそんなことになってしまうかもしれない。空き家を有効活用して安い価格で若い世代が入居して循環すれば良いのですが。

(委員)

言い方は悪いが、昭和30～40年代の家屋は中途半端である。県外から古民家を求められる方はそれ以前の建物を求められる方である。

(会長)

高齢者には駅前のマンションに人気があります。名張の中でも自然との共生で古民家に住みたいというニーズはあると。将来的には、空き家問題が大きな課題かもしれません。それから道路などのインフラの問題。予算も時間もかかるテーマだと思います。一方、緊急的なところは、雇用の問題、若者の定住・定着の問題、今のままだとあまり魅力がないと。若い人たちが出ていってしまうと。先程の産業の話しもそうでしたが、結果的には、勤める場所がない、若者が参画するようなまちづくりの仕組みができていないとなると、大阪等の方が良いと出ていってしまう可能性がある。若者がコミュニティに入りにくいというのは、若者のライフスタイルによるものですか。

(委員)

まちづくりに携わる人たちが同世代の方々が集まっており、若い世代の人たちの意見が通らない状況にあり、次世代の育成ができていないと感じています。

(会長)

私がかつて三重大学に在籍した時、ゆめづくり地域予算制度があつて地域にインセンティブをつけて交付金を配分する仕組みがあり、全国から視察が来ていましたが。

(委員)

その制度は継続しています。

(委員)

ある意味、年配の方々の力が強い状況にあると思います。

(副会長)

15の地域の中でも考え方に差があると思います。組織自体が、まちづくりひとつでそのまちを見守っている地域と、その中にある自治会や各委員会やセンター等が別々に活動している地域など、各地域でそれぞれなので、その基本を同じようにもっていかないと、決まったまちづくりはできていかないかなと思います。これからしていくなら、それぞれの特徴を生かしたまちづくりを。

(会長)

この制度は、当時画期的であつたが、メンバーも固定化し、実施していることも毎年同じであると、若い人たちが参加できずに年配の方ばかりになると。若い世代としてはどうですか。

(委員)

自分たちで団体を立ち上げて、自分たちから繋がろうとしました。

(委員)

71歳になるが、74～75歳の方々からは意見を聴いてもらえない状況にある。

(副会長)

若い人を役員や活動部会の部長に入ってもらったり、地元に残って仕事をしている若い人たちが、ある程度自由がきいて組織をつくってくれている人にまちづくりに加入してもらおうと考え方がすごく変わる。去年この事業をしていたから今年も同じことをしないと意見される方もいるが、「今年度から若い人たちに変わったから若い人たちの考え方で、去年とは同じ方法ではできないけど、するから見守ってほしい」という役割を私が現在担っている。

(会長)

これを見ていると、世代間のギャップがあるとか、大学生・高専生とともにまちづくりをやるための協働の仕組みがない、必要だと。小中高との関わり方、先生も含めて、地域と関わっていくための仕組み、つなぐという視点が名張には無くて、それぞれがそれぞれで頑張っているんですけど、世代間で連携するとか、協働するということまでいってないような感じのご意見ですね。

それぞれ単体として頑張っているんでしょうけど、うまくそれが波及していかない理由がその辺にあるのかなと思います。緊急的で予算もかからないので、ある程度行政がコーディネートすれば、できそうな部分ではあるんですけど、今のところそれは課題ですかね。

あと高齢化の弊害として硬直化してしまうとか、若い人たちが入って意見を言いにくいということはあるのかもしれませんが。

それからハード面ですと、空き家の問題、それから道路等これから老朽化して行って、更新が必要な時期に予算も必要です。どうするか、この二極化がみられるかなど。緊急的な予算が少なくできるソフト面とハードに関する意見となりました。こちら事務所で取りまとめていただきます。

【医療・福祉・教育】

(会長)

このテーマが多いと思ってましたが、意外にも少なく驚いています。先程市長からもお話しがありましたが、亀井市政が重点的にやってこられた政策で、緊急的な方を見ると、放課後の児童預かりの有料化、スポーツ施設の老朽化、テニスコート、公園が少ない、産科がない、産院がひとつ、中学校給食が導入されていない、生涯学習の充実、小学生までは手厚いサポートがあるが中学生になると薄くなる、文化施設の入場者が減っている。

予算の低いものでいうと、地域の高齢者の買い物(車の利用の問題)、民生委員児童委員のなり手がいない、大学生が小中学生の勉強を教えることで塾に行けない子をサポートする。比較的予算が少なくできるものは、上手く人と人をつなげば何とかいけそうなもの。

予算のかかるものはスポーツ施設の改修(ハード面)があります。あとは、子育て支援に関する様々な課題でしょうか、給食や放課後預かりの有料の問題など、この辺りは市として何とかサポートしていくもの。あとは、地域で子育てを支える、生涯学習の充実、そう考えると課題があまりない。子育て支援とか比較的満足されているのでしょうか。

(委員)

制度的には名張版ネウボラなど、ある程度かたちできて上手く回っている部分もありますが、私見ですが、その部分が各地区に支えられてまわしていこうというのがやり方だったが、先程の各地区で硬直化しているので、過去には全国から視察も来ていたが、今は止まっています。それほど中が動かなくなり魅力がなくなってしまった。その時に意見を言っていると、たいいていの会議で男性が20人ぐらい居て、女性が一人だったりする。硬直化している部分が子育てにも影響

が出ているかなと感じている。

(会長)

多様性という点で、自治会・町内会で男性や年配の方で、女性や子育て世代の方が入ってこれないような環境にあると。名張は最初結構視察が入るのですが、何年か経過すると硬直化してしまう。取組としての課題かもしれません。

【その他】

(会長)

これについてはあまり意見が出なかったのですが、ここのメンバーだけでもなかなか出ない。これはおそらくパブリックコメントを含めて、色んな世代から意見を伺う機会もあると思います。名張版のアプリや情報発信、これはどのようなイメージでしょうか。

(委員)

イメージとしましては、スマホにあるアプリで名張版というものを作成し、文化施設に行けばスタンプ（地域ポイント）がもらえ、市内のお店でお買い物ができるであったり、また市内の小売店の情報を掲載して、皆さんに情報発信できるようなイメージです。

(会長)

若い世代は紙のスタンプをほとんど持たないみたいで、みんなスマホで貯めていくようですね。キャッシュレスも進んで、現金よりも様々な pay で支払うような。若者を定着させるといって、その辺りは整えておかないと不便だなと感じるかもしれません。

(委員)

スマホは弱いです。離れて暮らす子どもが教えてくれる。

(会長)

行政が情報を出す時に紙媒体をやめることができない理由は、スマホが見れない情報弱者の方のために両方やらないといけないので、コストが倍になってしまいます。

(委員)

タイに住む日本人の知人で85歳ぐらいの方はスマホを使用され、現金の送金もスマホで済まされる。こちらがビックリする。地域性もあり、市が取り組むことで変わっていくと思う。

(会長)

先行して市がアプリをつくって、便利ですよとすれば変わるかもしれない。

(委員)

健康づくりに結びつけても良いと思う。

(会長)

若い人にも参画してもらえそうなアプリをつくれば面白いですし、情報発信もいま名張の情報も広報とかあると思いますが、若い方は紙の広報は見ない方が多い。ネットで見るといってなかなかそこまで厳しいと思うので、市長がイメージされているのは、市民が発信した情報をみんなで共有できる、行政が一方的に情報を発信するのではなくて、色んな情報が飛び交うようなかたちが理想的だと考えていると思います。

(委員)

名張子育てLINEは良いと思います。現在は、市が子育てに関する情報をLINEで登録された方に発信しています。子育て以外のことも発信されている、若い人向けに、～講座がありますなど。

(会長)

行政からの一方通行ではなく、ユーザーからも情報発信できれば。行政からの情報は限られていますから、子育てなどでそのような仕組みがあれば理想的なので、今後工夫が必要かもしれません。

それから、バスの本数が少ない、夜のバスの時間帯、団地行きの最終便が早くなり困っている。交通弱者対策をどうするか、なかなか難しい問題です。

それから、関西圏に近いため人口が減る、若者や学生たちが進学や就職を機に出ていってしまい、結果的に戻って来ない。市長が問題視されている人口減少も結局そこだと思います。人口の社会的減少、名張が関西に近いということが、本当は利便性が高いということなのですが、逆に言えば、人口の減少に拍車をかけているとも言えるわけで、この人口減少をどうやって止めるのか、非常に難しい問題です。

それから、著名人にPRしてもらおう、PRパートナー。

(委員)

名張市がPRパートナーの取組をしているということを市民の皆さんがほとんど知らないと思います。その点は行政として頑張ってもらいたいと思います。

(会長)

シティプロモーションになると思いますので、ひとつの課題になると思います。

(委員)

本日の会議にアドバンスコープが来ており、3～5分程度の放映で終わると思うが、そうではなく、こういう会議を始めたというメッセージを市職員や市長が10分程度メッセージを出した

ら良いと思う。最初の段階から、発信しておく方が良いと思う。

(会長)

おそらく市長から審議会の進捗状況については適宜発信されると思います。

(委員)

パブリックコメントは計画が完成する頃ですよ。

(会長)

パブリックコメントはそのような時期になります。ある程度かたちになって、我々の意見を反映させていただいて、できましたという時点で、パブリックコメントを行うかたちになります。

委員の方から、早い時期での市長メッセージの要望がありましたことは、また事務局から市長にご報告いただきたいと思います。

5. まとめ及び次回の日程調整

6. その他

(会長)

本日は時間の都合で、皆様のご意見をいただくということで、話して出すよりも貼り付けて出した方がたくさんの意見が出ましたし、討論しながらの方が自分の思いも伝えられたのではないかと思います。

これはまだ不十分ですので、事務局の方でまとめていただくのですが、今後の第2回・第3回の議論の中で皆さんには、色々のご意見を伺う機会を設けていきたいと思っておりますし、今後は、事務局の方である程度骨子・骨格みたいなものをつくっていただきます。

皆様のお話し、これまでの進捗を踏まえて出てきたものを、今度はたたいていく作業になってきます。これはこういう表現の方が良いとか、こうした方が良いとか、テーマの数とか。全部が全部反映できるかどうか分かりませんが、今後は、我々と事務局との対話を通じて、最後は完成させないといけないので、本日諮問いただきました。期日までに皆さんの意見をまとめることをしていきたいと思っております。

今後の進め方や意見聴取の仕方では何かご意見がありましたら、今後まとめていくというプロセスでは、私が考えているのは、事務局が毎回議論することや議論の土台となるものを提出していただくようにしようと考えています。それについて、皆さんから意見をいただく、できれば資料は当日ではなく事前にお送りし、当日意見を伺うという手法を考えていますが、事務局どうでしょうか。

(事務局)

事前に各委員の皆さんにお送りしたいと思います。

※今後の策定スケジュール等の概要について事務局より説明

※次回開催：8月3日（水）15時00分～

以上